

### 3 薬物乱用に関するQ & A

#### 質問1

「薬物乱用」がいけないと言われますが、どこがいけないのですか。

#### 答

乱用薬物の特徴は、精神に影響を与える作用を持っていることです。中枢神経系を興奮させたり、抑制することによって、多幸感、爽快感、酩酊、不安や苦痛の除去、幻覚などをもたらします。これらの乱用薬物は、連用によって依存症が生じ、薬物なしではいられないといった状態が起こり、また幻覚・妄想などの精神症状をきたします。

#### 質問2

薬物の乱用は、他人に迷惑をかけなければ個人の問題であり、別にかまわないのではないのですか。

#### 答

薬物乱用の弊害は、必ず周囲の人々をも巻き込み、幾多の悲劇を生み出します。決して、「被害者なき犯罪」ではありません。薬物乱用の弊害の代表的なものに暴力があります。長期に乱用すると、幻覚や被害妄想が強くなり、家族に乱暴したり、凶器を持ち歩くようになります。家族や周囲の人はそれに振り回され、恐怖と苦痛の毎日を強いられることとなります。また、薬物乱用はさまざまな犯罪に結びつきます。殺人、放火、窃盗、傷害等凶悪事件の具体例は枚挙にいとまがありません。

### 質問3

薬物乱用問題は、私たちには全く関係ありません。それらは、暴力団組員や芸能人、スポーツ選手が乱用しているのではないのですか。

### 答

主婦や学生、会社員の薬物乱用者は急増の一途をたどっています。年齢、職業も多岐にわたり、薬物乱用は、すでに一般市民の問題です。近年、薬物乱用は、低年齢層へも及び、平成9年には全国で高校生219人、中学生43人が覚せい剤事犯で検挙されています。その後、覚せい剤事犯による中高生の検挙者は減少傾向にありますが、平成16年には東京都内の高校生が校内でMDMAを密売した事犯や京都市内の中学生が大麻やMDMAを買うお金欲しさから酒屋へ強盗に入った事犯などがありました。

このように、私たちにとっても身近な問題となってきています。

### 質問4

乱用薬物を見たこともなければ、周りでそんな話も聞きません。そんなに早急に防止を訴えることはないのではないのですか。

### 答

麻薬の不正売買は50兆円に達するといわれ、原油・天然ガスの貿易額とほぼ同額の商品です。薬物取引によって生じる利益は莫大なので、マフィアをはじめ世界の麻薬密売組織は消費国としての経済大国日本への売り込みに熱心です。日本においても、暴力団がその密輸入から流通に至るまで支配しています。密売の手口は、携帯電話やインターネットを利用するなど非常に巧妙になっています。

このように、覚せい剤、大麻、MDMA、コカイン、シンナー等の乱用薬物は、既に、私たちの周りに音も立てずに忍び寄り、もはや無関心は許されない緊急事態となっています。

質問5

なぜ、「ダメ。ゼッタイ。」という言葉が薬物乱用防止の運動で使われているのですか。

答

我々の社会を腐食・崩壊させようとしている薬物乱用に対して、国連を中心に世界の国々が一丸となって、薬物乱用防止運動に取り組んでいます。国連では「YES TO LIFE, NO TO DRUGS」（愛する自分を大切に、薬物の乱用をなくそう）、日本では「ダメ。ゼッタイ。」を薬物乱用防止の合言葉として運動を行っています。

質問6

MDMA・MDAとは何ですか。

答

MDMA・MDAは、合成麻薬（けしやコカなどの植物からではなく、他の化学薬品から合成された麻薬）の一種で、化学式は覚せい剤に類似していますが、「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象になっています。

MDMA（メチレンジオキシメタンフェタミン）は、別名エクスタシー、バツ、タマとも呼ばれ、白色の結晶性粉末ですが、一般的には、錠剤又はカプセルの形で密売されています。

MDA（メチレンジオキシアニフェタミン）は、別名ラブドラッグとも呼ばれ、白色の粉末ですが、その純度によって黄色や茶色のものがあり、まれに琥珀色の液体のものもあります。通常は錠剤の形で密売されています。

なお、現在日本では、このMDMA、MDAとも医療では使われておらず、全て不正な薬物で、取締りの対象となっており、平成16年には約47万錠が押収されています。

これらは、覚せい剤と幻覚剤を混ぜたような作用があり、興奮作用と同時に幻覚作用もあります。また、強い精神依存性を持っており、乱用を続けると錯乱状態になり、腎臓・肝臓障害や記憶障害などの症状も現れます。

#### 質問7

マジックマッシュルームとは何ですか。

#### 答

幻覚作用のあるキノコの俗称です。幻覚を起こす成分は、サイロシビン又はサイロシンで、かつては「観賞用」、「合法ドラッグ」等と称され、路上やインターネットを通じて販売されていましたが、このマジックマッシュルームが原因と思われる中毒や事故が発生したため、「麻薬、向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令」が改正され、平成14年6月6日から麻薬と同じように規制されています。従って、これらのキノコの所持、販売、栽培などは違法となります。

なお、その他の俗称として、「マッシュ」、「ファニーマッシュルーム」、「ハッピーマッシュルーム」、「神の食べ物」、「神聖なキノコ」等があります。

食後30分前後で、幻覚、めまい、酩酊状態、狂乱、発熱などの症状が現れます。食べた後、数週間後に飲酒や睡眠不足などによって、突然、幻覚、妄想などが再燃するフラッシュバック現象が起こることがあります。

#### 質問8

脱法ドラッグ（合法ドラッグ）とは何ですか。

#### 答

通称「脱法ドラッグ（合法ドラッグ）」には明確な定義はありませんでしたが、平成16年に6回にわたり開催された、厚生労働省の「脱法ドラッグ対策のあり方に関する検討会」で、「麻薬又は向精神薬には指定されておらず、麻薬又は向精神薬と類似の有害性を有することが疑われる物であって、専ら人に乱用させることを目的として製造、販売等がされるもの」と定義されました。

また、「脱法ドラッグ」や「合法ドラッグ」という呼称は、これらが薬事法違反である疑いが強いにもかかわらず、法の規制が及ばないかのような誤ったメッセージを与えかねないため、今後は「違法ドラッグ」とすべきであるとされました。

この検討会の意見を踏まえ、厚生労働省は薬事法を改正し、流通段階での規制を強化することとしています。

違法ドラッグ（脱法ドラッグ、合法ドラッグ）と言われるものには、次のようなものがあります。

## RUSH

亜硝酸イソブチル、亜硝酸アミルなどの亜硝酸エステル類で、本来、芳香剤又はビデオヘッドクリーナーと表示されたガラス瓶入りの揮発性液体として販売されている。

鼻から吸引することにより性的快感が高まるという。血管拡張作用があり、使用法によっては循環器障害で死亡するおそれがある。

## 各種ハーブ類

最近、海外から輸入した各種ハーブ系のいわゆる健康食品や栄養補助食品が店頭に並んでいる。各種ハーブ類には、覚せい剤原料のエフェドリンがとれる生薬のマオウが含まれている可能性がある。含有されていれば当然薬事法に違反する。また、乾燥したハーブ類を刻んだものをお茶として飲む方法も、一部の若者の間で流行しはじめている。

## ハーブ系ドラッグ

クラウド9、エクスパリアなど種々の幸福感や快感を高める目的のドラッグ（健康食品）が米国などから入ってきている。基本的にはハーブ系ドラッグである。

## ○○エクスタシー

植物由来のガラナや、カバカバなどを含む健康食品の一種である（○○の部分には、ハーバルとかナチュラルなどの具体的な商品名となる。）。娯薬として米国の若者の間で注目を浴びた。「ハイな気分になれる」などと若者向けの雑誌で紹介され、原宿のファンシーショップなどにも並び、ファッション感覚で購入する少女たちが続出するなど、日本でもブームになった。また、類似品の『セクスタシー』という商品には1粒中22.9mgの塩酸エフェドリンが検出され処分を受けている。

## ガスハン

ライターガスやガスコンロ、制汗スプレーなどのブタンガスを吸入するもの。酸素欠乏やブタンガスの麻酔作用により一種の酩酊感が起こるほか、幻視・幻聴も起こり、中毒症状としてシンナーと同様に頭痛、めまい、嘔吐、視力障害、呼吸抑制などが報告されている。

また、長期乱用により、ガラガラ声になったり、肺の働きが悪くなるため、体力が低下し、気力もなくなる。

吸引時の酸素欠乏、嘔吐物による窒息、ガスへの引火などによる死亡例が報告されている。

## ペヨーテ

強力な幻覚作用を持つメスカリンを含有する植物のサボテンである。幻覚成分のメスカリンは麻薬であり、所持や使用も禁止されているが、植物自体は取締り対象外。

質問 9

フラッシュバックとは何ですか。

答

薬物乱用の害は半永久的に続きます。特に、覚せい剤やコカイン、シンナー・トルエンなどの精神毒性の強い薬物は、その乱用を長く続けていると、必ずといっていいほど幻覚や妄想などの統合失調症（精神分裂病）に似た精神障害が、高い頻度で出現するようになります。

しかも、乱用を中断して、普通の生活に戻り、かなりの期間経過した後でも、乱用者の脳の記憶装置に精神障害の痕跡が奥深く残っており、その後、再びたった1回薬物を乱用しただけでも、突然、激しい幻覚や妄想などの強い精神異常を再発することがあります。これをフラッシュバック（再燃現象）といいます。

このフラッシュバックの恐ろしいところは、乱用していた同じ種類の薬物を使用しなくても、強い心理的ストレスや不眠状態、アルコール摂取又は別の薬物の服用などによって、前と同じような幻覚や妄想などの強い精神異常が出現してしまうことにあります。

フラッシュバック現象は、精神毒性の強い薬物に起こりやすいことが知られています。急性の精神毒性の強い薬物では幻覚剤系の大麻、LSDなどがあります。また慢性の精神毒性の強い薬物では、覚せい剤やコカイン、シンナーなどが挙げられます。

